



2016年3月17日発行 会報第831号

今週のプログラム

(2016年3月17日 第831回例会)

卓話「MY ROTARY について」

担当 水島 洋 会員

次週のプログラム

(2016年3月24日 第832回例会)

社会奉仕フォーラム

担当 山下社会奉仕委員長

第830回例会 (2016年3月10日) の記録

<会長の時間>

松田親男

会長挨拶

皆さん今晚は。明日は3月11日 震災から満5年目を迎えます。関西では5年という歳月は、風化するのに十分な時間でして、正直言いまして、震災は遠い昔のことに思うことがあります。その意味で、先日のIMは、関西人の記憶を喚起し、啓発してくれるよい機会でした。今日は、「人は自然災害とどう向き合うか」というお話をします。どこかで聞いたことがあるなど思われた方は熱心なロータリアンです。実はロータリーの友3月号からの抜粋です。まず、土砂災害が大きくなる要因は3つほどあるそうです。1つめは、当然のことながら大雨。2つめは地質や地形です。3つめは宅地開発です。土砂災害の地域の防災については土砂災害警戒区域が指定されたり、土砂災害境界情報が出されたりしますが、これらの手続きは相当複雑な要素が絡んでおり簡単に出せないことが問題だそうです。土石流の発生予想情報は雨量計だけで判断するそうですが、下流に押し寄せた水の量は雨量としては計算しないので正確性に難があるそうです。自治体が出す避難勧告も、一旦出した以上、避難場所の確保などを自治体の責任で行わなくてはならなくなるので、なかなか発動できないというのが現状のようです。では、どのように自然災害から身を守るのか・・・。筆者は、一つは自分の身は自分で守る「自助」、近隣の住民が助け合う「共助」、公的な機関、或いは地方自治体が行う「公助」の3つをあげています。阪神大震災の前のアンケートでは自助・共助・公助の割合は、1:2:7だったそうですが、震災後は、7:2:1になりました。震災を経験して自分の身は自分で守るしかないという意識に変わってきたと言うことです。皆さんは、日頃準備をされていますでしょうか。土地の地形や地質を良く認識していますか。最近では海拔何mという看板が掲げている役所もあります。火の始末等火災への対応、避難場所、避難経路を確認していますか。家族との連絡手段、集合場所を日頃から話あっていますか。懐中電灯等防災グッズの準備はできていますか。まさかの時に備えて一度確認されてはいかががでしょうか。

<お客様> 無し

<出席報告> 西本明文出席担当

会員数（内出席免除会員4名）	23名
本日の出席者数（内免除会員1名）	15名
本日の出席率	75.00%
前々回2月26日の修正出席率	76.19%
2月のホームクラブ出席率	76.92%
2月の平均出席率	83.08%

<ロータリーソング> 全会員

♪日も風も星も♪

<ピアノ演奏> 近藤美里さん

- 1 春待草
- 2 春の歌 メンデルスゾーン
- 3 やわらかい日差しの中で

<幹事報告>

山本友亮幹事

1. 福島21RC創立15周年記念式典・祝賀会・姉妹クラブ親睦ゴルフコンペの参加申し込み表を回覧致しますので、ご記入ください。締切りは来週例会になりますのでよろしくお願ひ致します。
2. 本日例会終了後、おしどりの間に於きまして臨時理事会を開催致します。理事役員の皆様は御出席ください。
3. 当初、本日に予定されていましたが次年度理事会は延期になりますが、追ってご連絡させていただきます。

IMも無事終わりました。先週仕事で欠席でしたので、IM報告・反省会に出席できず残念でした。「ラオスへ・福島へ」IMの成功と感動は私にとりましては、申し訳ありませんが、1年間とりあえず役割をこなす程度にしか考えていない部分もありましたが、千里メイプルのラオス支援活動を、誇りに思わせて頂けました。また、高尾委員長が山本加奈子さんに「我々ラオスに行った会員と行っていない会員との温度差を感じる事があるんです」と話されていたのを耳にしました。行って頂いた会員の方々には申し訳ありませんが、なるほど高尾会員の言われる通りのところもあったかと感じます。国際奉仕委員長になりました時に、活動方針で山本加奈子さんに例会に来て頂きラオスの現状と今後について卓話をお願いできないかと考えていました。それは心の中でいつもそう思っていた事でもありました。実感と実動を会員と加奈子さんからもっと聞きたい、尋ねたい、影響を受けたい、そんな表現はおかしいかもしれませんが、「ラオス」の事がテレビ番組で流れると異常に意識する自分もあるのです。加奈子さんとは以前もお目にかかつてはおりましたが、今回IM後の打ち上げ食事会、そして2次会で以前よりもっと親しくさせていただく機会を頂戴しました。加奈子さんは私が行くアメリカインディアンの人々の暮らしや自然に興味を持ってくださっていたのもあり、私達は、行く国は違えども互いにラオス、アメリカインディアンの人々との出会いによって導かれた志や縁、心の支えや、癒し、もうひとつの家族のような感覚、そして異文化や生活感の違いの不思議さなども語りあいました。ホテルでなく彼らのお家に一緒に泊まりましょうとお誘いを受け、恵まれた環境で暮らすアメリカインディアンの人々の土地へ行くよりも過酷な環境であっても大自然の中に迎え入れられる魅力やお互いの話しの中で乾燥地帯と湿地帯での自然環境の差を感じながらも、電気のない暗闇の中や、あたりまえに有るものが無い暮らしの人々との話にワクワクし合いました。触れ合いの中で支援や活動だけでなく、そこで暮らす人々や自然に惹かれる私達は個人の荷物の中で村で役立つものなども話しました。私はソーラーライトがラオスでも役立つのではないかと感じました。いつか行くことがありましたら、未知の農村なので個人としても持って行きたいと思います。アメリカインディアンの居留地外での電気も水もない土地で重宝したライトを皆さんにも見て頂きたいと思います。ぺちゃんこに折りたたためて、かさばらず燃料も電池もいらない太陽の光の充電で明かりを灯せるこのライトは私にとってはLEDより優れモノです。

他クラブの他国への支援活動もしらべますと、浄水器の設置、学校の設立、井戸を作る、立派なトイレを建てる、など様々です。しかし、<その後を知る>大切さと、<永続する>、それを考え見据えた活動が大事なんだと思いました。タイの農村部で浄水器を設置し、いずれ村人からわずかでもお金を徴収すると言う補助金申請書を拝見したことがあります。疑問に思いました。立派な建物でしょうか？ お金の流通の必要性でしょうか？建物より人、お金でなく知識、物資の供給だけでなくその土地の資源や人々の隠れた才能や、都会育ちではわからぬ彼らの知恵や知識の交換をしながら互いが学び教えあい、根本的な生きる為の病を防ぐ手洗いの教えは、どんな高額な奉仕活動よりも誇れるものであると感じました。国際奉仕とは、答えや思いは人それぞれかもしれません。IMでの阿部住職のお話に、高尾会員と共に涙しました東北大震災、明日で5年目を迎えます。福島からラオスの空へと平和の虹が渡りますように…IMでAVEさんの歌われた<花は咲く>、福島の人々、ラオスの人々、御縁のある人々、そして皆さんの心にも花が咲いていきますように。

<SAA報告> 藤田芳浩SAA

*スマイルボックス
松田会長 ニコニコ久しぶりです。
コメント無 相原会員 西本会員

*ロータリー財団
水本会員 国際奉仕フォーラム 山田委員長宜しく！
藤田会員 花粉症、今日はキツイです。
コメント無 高尾会員 山下会員 木下吉会員

*米山記念奨学会
松田会長 山田さん、フォーラムよろしく！
藤田会員 先週土曜日、肖君と阿倍野ハルカスに行ってランチしました。
コメント無 山下会員 高尾会員 木下吉会員 山本雅会員

*ラオス基金
藤田会員 花粉症、ティッシュが足りません！
コメント無 西本会員 高尾会員 山下会員 渡邊会員

*メイプル基金
松田会長 臨時理事会よろしく
西本会員 又、気温さがりました
村田会員 寒いです。山田委員長卓話楽しみです。
高尾会員 国際奉仕フォーラムよろしく。
水島会員 山田委員長フォーラム宜しくお願いします。
藤田会員 山田国際奉仕委員長フォーラムよろしくお願いします！！
山本幹事 国際フォーラム宜しくお願いします
山田会員 フォーラム、30分ダとっていました。あ～あ
コメント無 相原会員 山下会員 木下吉会員 渡邊会員

<編集後記・追加情報・ チョット一言・ライブラリー・etc>

国際奉仕フォーラム、ラオスや国際奉仕について皆さんに順番にマイクで話して頂きたかったのですが、時間の配分、配慮に欠け、出席者全員の方にマイクが回らず、すみませんでした。

「ラオスへ行こう」現地へ行ける会員も行けない会員も、IMによりラオスがより近くに感じることが出来たように思います。大きな金額の奉仕よりも、小さくとも「手洗い」と言うあたりまえのあたりまえでない習慣を子供達に教え続けることは、命を繋ぐ素晴らしい活動だと感じました。有難うございました。

(担当 山田)

